

2014年12月13日



日本での現在とこれからの 製造業を考える

群馬大学 理工学研究院 電子情報部門
小林春夫

歴史は韻を踏む

何千年前もの指摘

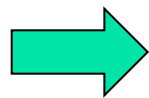


「人はその長ずる所に死せざるはすくなし」

(墨子)

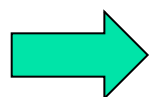
人は長所・得意なことでしくじることが多い。

錐(きり)で最初に折れる



最も鋭利な錐

最初に刃が摩滅する



最も優れた刃物

最初に汲み尽されてしまう



→ うまい井戸の水

最初に切り倒されてしまう

→ 高い真っ直ぐな木

人も国も同じ

勇気のある者はその勇気ゆえ

能力のある者はその能力のゆえ

→ かえって身を滅ぼしてしまう

有能な人、国が

その地位を守り通すことはむずかしい



現在の日本

- (少し前まで) 製造業が隆盛
 ➡ (現在) 製造業で苦戦
- 技術が得意
 ➡ 技術で苦戦

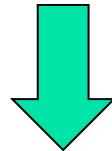
墨子の指摘通りか。
が結論を断定すべきではない。

論調に流されない

Fact 1

十数年ほど前 半導体国際会議で
アジア諸国の大学から発表が増え始める。

「日本は危機感を持つべき」



当時の論調

「何を言っている。

日本の製造業は世界に冠たるものである。」

論調に流されない

Fact 2

現在の論調

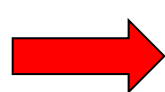
「日本は製造業から転換をするべき」



- 米国は、情報通信(ICT)技術により製造業が復活している。

ICT: Information & Communication Technology

- いくつかの欧米半導体メーカー



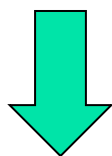
高い利益率

論調に流されない

Fact 3

現在の論調

「低コスト技術、適正品質」



別の見方あり

「カジュアル(低価格)とエレガンス(高品質)
の波が交互に来る」

「クオリティ国家という戦略」 (大前研一)

低コスト化、適正品質の問題点

「もの」への感謝の気持ちが薄れる？

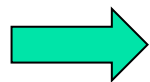
「購入したものを 愛着をもって長年使用したい
気持ちがおきない。

「短期間での買い替えを前提にした製品が多い。」

「人を生かし、物を生かす。

「感謝の心ほど人生を豊かにするものはない」

「物は生きている」



違和感を感じる状況？



「低コスト化」は重要だが、
それだけでは 何かが足りない

「水道水はタダだが、
ミネラルウォーターには高いお金を払う」
「私はアップルの経営を上手くやるために
仕事をしているわけではない。
最高のコンピュータを作るために
仕事をしているのだ。」

(Steve Jobs)



なぜ産学連携の時代か？

日本の産業界が絶好調のとき。

大手メーカーは地方大学など相手にしない。

現在日本社会は厳しい国際競争に直面し、大学を積極活用。

「大道廃れて仁義有り、知恵出でて大偽有り。

六親和せずして孝慈有り、国家昏乱して忠臣有り」(老子)

道が廃れ仁義の概念が生じ、知恵が現れ偽りの概念が生じる。
父子・兄弟・夫婦の不仲で親孝行・子への慈愛の概念が生じ、
国家が衰え混乱し忠臣の概念が生まれる。

疾風に勁草を知る



「(将棋の)弱い人ほど結論を早く出したがる」
(大山康晴 将棋15世名人)

簡単に結論を出さない。